

1時間の授業の流れとは・・・II

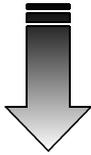
【1時間の授業の流れ（つづき）】

展開

〈はじまりの言葉(例)〉

「では、今日は〇〇について・・・」

- ・ここは本時の目標の観点に沿った活動を進めていくこととなります。観点によっては、活動の方法も違うのでそこをしっかりと吟味して取り組みたいものです。
- ・いわゆる「共同学習」なのか「協調学習」なのか、観点によって違ってきますよね。共に作業すること、例えば実験や調べ学習などの”技能”を問うものであれば「共同学習」がふさわしいですし、思考を寄り添い、深めるものであれば「協調学習」が望ましいです。このように、観点を明確にすれば、活動も明確になってくることでしょう。(詳細はまた後ほど・・・)



まとめ

〈はじまりの言葉(例)〉

「今日のまとめをします。今日は何がわかりましたか？」

- ・ここもめあてと同じで子供の言葉でまとめていくことが理想です。
- ・まとめのポイントは、いかにめあてと連動しているかです。めあての言葉に沿ってまとめられていると、筋が通った授業になったということでしょう。できれば、めあてに使った言葉を利用してまとめられているとわかりやすいです。



適応題

- ・できれば、診断的評価として練習問題ができるといいですね。(教科や展開によってはない場合もあります。)

ふりかえり

〈はじまりの言葉(例)〉

「今日の授業でわかったこと、気付いたことは・・・」

- ・振り返りは、ただの感想で終わるのではなく、本時の「学び」を子供自身に気付かせ振り返る時間にしたいものです。そのための工夫が大切です。

紹介した授業の流れは、本当に教員養成の課程では当たり前の流れではありますが、なかなか現実的には実現できていません。この流れが1時間を構造的にメリハリのある授業構成となるのです。特に、後半の「まとめ」～「ふりかえり」の時間設定ができていない授業が多く見られます。そのためには、10分程度は確保しておくことが必要になります。こうしたタイムマネジメントが徹底できた授業づくりが本来大切だと言えます。